

鉄鋼概況

世界粗鋼生産ランキング 新日鉄住金 2位に

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

5月の輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 8.5%減の 364 万 3,000 トンとなり、7 カ月ぶりの前年割れとなった。神戸製鋼所は、2017 年度を目途に、神戸製鉄所の製鉄・製鋼の上工程設備を休止して加古川製鉄所に集約すると発表した。さらに 2013～15 年度対象の新中期計画を発表し、2015 年度には経常利益 800～1000 億円、DE レシオ 1.3 倍程度を目指す。JFE スチールは西日本製鉄所福山地区に 200 億円強を投じて転炉を 1 基増設すると発表した。2012 年の世界鉄鋼メーカーの粗鋼生産ランキングによると、新日鉄住金は 2 位、JFE スチールは前年と同じ 9 位だった。世界最大手のアルセロール・ミッタルは発足以来 7 年連続の首位を維持した。5月の世界（63 カ国）粗鋼生産は前年同月比 2.6%増で 8 カ月連続増加したが、操業率は 79.6%で前年同月比 0.9 ポイント下がった。

◆5月粗鋼生産、3カ月連続増

鉄鋼連盟が発表した普通鋼鋼材の 4 月末国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比 1 万 2,000 トン、0.2%増の 542 万 1,000 トンと微増ながら 3 カ月ぶりに増加した。出荷が前月比約 11%減少したため在庫率は 141.9%と前月末比 16.3 ポイント増と大幅に上昇した。一方、普通鋼鋼材の 4 月末の流通在庫は、鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると、前月末比横這いの 266 万 9,000 トンとなった。4 月の販売量は前年同月比 0.6%減（前月比 1.5%減）と 8 カ月連続で前年水準を下回った。その結果、在庫率は前月末比 1.5 ポイント上昇の 103.3%となり、29 カ月連続して 100%を上回った。

主要製品の在庫状況をみると、4 月末の薄板 3 品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月末比 4 万 6,000 トン、1.2%減の 380 万 7,000 トンとなった。4 月はメーカーの定期修理などがあり国内向け生産が前月比約 25 万トン減の 162 万トンに減少したことから、在庫率は前月末比 0.3 ポイント上昇の 2.35 カ月となったが、在庫水準は 3 カ月連続して 380 万トン台で推移している。主要建材製品の H 形鋼の 5 月末流通在庫は新日鉄住金の建材特約店組織である「ときわ会」のまとめによると、前月末比 4,900 トン、2.5%増の 19 万 7,200 トンと前月の減少から再び増加に転じた。在庫率は 2.31 カ月と 5 カ月連続で 2 カ月台の水準で過剰感は払拭できていない。

鉄鋼連盟が発表した 5 月の国内粗鋼生産量は前年同月比 4.3%増の 962 万 2,000 トンとなり、3 カ月連続で前年同月実績を上回った。生産水準としては東日本大震災直前の 2011 年 1 月に次ぐ。マンション建設や復興需要、自動車など製造業の内需回復・円高修正による輸入減、輸出増を背景に、高炉メーカーが中間在庫を積み増したことから生産が増加した。1 日当たりの粗鋼生産量は前月比 9,000 トン、約 1.6%増の 31 万 400 トンで年換算では 1 億 1 千万トンを超える水準となった。炉別生産でみると、転炉鋼が前年同月比 6.4%増の 743 万トンで 3 カ月連続増、電炉鋼が同 2.1%減の 219 万トンで 10 カ月連続減となっている。鋼種別にみると、普通鋼が同 5.9%増の 748 万 6,000 トンで 3 カ月連続増、特殊鋼

が1.0%減の213万7,000トンで10カ月連続減となっている。

財務省が発表した5月の鉄鋼貿易統計によると、輸出(全鉄鋼ベース)は前年同月比8.5%減の364万3,000トンとなり、7カ月ぶりの前年割れとなった。しかし、なお350万トンを超える高水準となった。一方、輸入は同12.2%減の57万8,300トンと8カ月連続の減少となった。地域・国別輸出では、アジアが同3.1%減の296万8,000トンで、このうち中国は11.3%減の52万3,000トン、NIE'sが13.4%減の104万3,000トン、ASEANが5.9%増の121万2,000トンとなった。自動車メーカーの増産を中心としたASEANの好調ぶりが際立つ。このほか中東は28.7%減の15万9,000トン、米国は32.2%減の14万4,000トンとなっている。輸入の地域別内訳はアジアからが前年同月比12.7%減の48万1,900トン、このうち中国からは12.5%減の8万7,000トン、NIE'sからが14.4%減の36万500トン、ロシアからが0.1%増の2万200トンとなっている。

◆神鋼、上工程を加古川に集約

神戸製鋼所は5月29日、2017年度を目途に、神戸製鉄所の製鉄・製鋼の上工程設備を休止して加古川製鉄所に集約すると発表した。加古川の年間粗鋼生産能力は680万トン、神戸製鉄所(神鉄)は140万トンだが、全社の粗鋼能力を700万トン規模に削減し、加古川の上工程設備稼働率を高める。加古川では約500億円を投じて、ブルーム連続铸造設備、溶鋼処理(炉外精錬)設備を新增設するほか、第2分塊工場の能力を増強する。神鉄の高炉は小型であることに加え、コークス炉や焼結工場などの原料前処理設備をもたず、従来主原料を加古川から供給を受けていた。一連の構造改革により、年150億円以上のコスト削減効果を見込むとしている。鉄鋼事業の収益改善策では、2015年度までに溶銑予備処理設備導入などで2012年度比600億円を見込むが、これに上乗せを図る。なお、神鉄の上工程設備休止に伴い、4~6月期決算で185億円を減損損失として特別損失に計上する。

同社は同日、2013~15年度を対象とした新中期計画を発表し、それによると最終の2015年度には経常利益800~1000億円、DEレシオ1.3倍程度を目指す。また、2020年度には経常利益2千億円を目指す。財務体質改善では3年間で1,200億円のキャッシュフローを創出し、2016年度以降早期にDEレシオ1.0倍以下を目指す。中期の具体的な施策としては、①鋼材事業の構造改革、②機械系事業の戦略的な拡大、③電力供給事業の拡大、④最適経営プラットフォームの検討——に取り組むとしている。2012年度の経常損益は181億円の赤字だったが、ここから増益要因は、①コストダウン750億円(鉄鋼事業600億円、体質強化150億円)、②減価償却変更130億円、③在庫評価200億円、④素材系と機械系の数量増100億円~300億円を見込んで、2015年度経常益800~1000億円に達するシナリオを描いている。

◆JFE、福山で転炉増設

JFEスチールは5月30日、西日本製鉄所福山地区に200億円強を投じて転炉を1基増設すると発表した。新たに独自開発した最新の溶銑予備処理プロセスを導入し、2015年に稼働を予定している。溶銑から珪素・燐などの不純物を除去することによって省資源、省エネにつなげ、転炉での生石灰使用量を4割減らせる見込みとしている。粗鋼生産能力は変わらない。今回の転炉増設には経済産業省の円高・エネルギー制約対策のための設備投資補助金を活用する。

◆2012年世界粗鋼生産ランキング、新日鉄住金2位

世界鉄鋼協会（WSA）がまとめた2012年の世界鉄鋼メーカーの粗鋼生産ランキングによると、統合した新日鉄住金は2位（2011年は新日鉄6位、住金は27位）となった。JFEスチールは前年と同じ9位だった。世界最大手のアルセロール・ミッタルは9,360万トンで、発足以来7年連続の首位を維持したが、前年比360万トン減少した。中国国営製鉄は、前年2位だった河北鋼鉄集団は4,280万トンと中核の唐山鋼鉄などの減産で160万トン減少して3位、宝鋼集団（4位）、武漢鋼鉄（6位）、鞍山鋼鉄（10位）、本溪鋼鉄（20位）なども前年割れであった。増加したのは曹妃甸製鉄所の高炉稼働率が上昇した首都鋼鉄集団（8位）、条鋼事業が堅調だった馬鞍山鋼鉄（16位）など少数だった。中国の民営製鉄は最大手の沙鋼集団（7位）を初め前年比増産となった。11位のタタ製鉄は2,300万トンのうちインド事業が680万トン、タイ事業が120万トン、ナットスチールが60万トン、欧州事業（旧コーラス）が1,440万トンで欧州事業の不振で前年比80万トン減となった。

表-1 ワールドスチールの粗鋼生産ランキング(2012年)

(単位:万トン,カッコ内は前年順位)

	社名	本社所在地	年間生産量
1	(1)アルセロール・ミッタル	ルクセンブルグ	9,360
2	(6)新日鉄住金	日本	4,790
3	(2)河北鋼鉄集団	中国	4,280
4	(3)宝鋼集団	中国	4,270
5	(4)ポスコ	韓国	3,990
6	(5)武漢鋼鉄集団	中国	3,640
7	(7)沙鋼集団	中国	3,230
8	(8)首都鋼鉄集団	中国	3,140
9	(9)JFEスチール	日本	3,040
10	(10)鞍山鋼鉄	中国	3,020
11	(11)山東鋼鉄	中国	2,300
	(12)タタ製鉄	インド	2,300
13	(13)USスチール	米国	2,140
14	(15)ニューコア	米国	2,010
15	(14)ゲルダウ	ブラジル	1,980
16	(18)馬鞍山鋼鉄	中国	1,730
17	(20)現代製鉄	韓国	1,710
18	(21)リバ・グループ	イタリア	1,600
19	(17)エブラズ	ロシア	1,590
20	(23)セベスター	ロシア	1,510
	(16)ティッセンクルップ	ドイツ	1,510
	(19)本溪鋼鉄	中国	1,510

◆5月世界粗鋼生産、1億3,630万トン

WSAが発表した5月の世界（63カ国）粗鋼生産は、1億3,630万トンで前年同月比では2.6%増で8カ月連続増、前月比では3.1%増で2カ月ぶりに増加した。5月の日産量は前月比では0.2%減と2カ月ぶりに減少した。63カ国の5月の操業率は79.6%と前月比0.4ポイント下がり、前年同月比でも0.9ポイント下がった。中国の5月の粗鋼生産は6,700万トンと月間最高記録を更新したが、日産量は前月比1.2%減と2カ月ぶりに減少した。中国以外の5月の日産量は前月比0.7%増と2カ月連続で増加した。新興国の5月の日産量をみると、韓国は2.7%と3カ月ぶりに減少した、インドは微増ながら3カ月ぶりの増加、ブラジルは0.1%減と2カ月ぶりに減少した。先進国では、EU27は前月比1.5%増と2ヶ月連続で増加した。北米は1.4%と3カ月ぶりに伸び、日本は1.6%増と5カ月連続で上伸した。1～5月の生産累計は6億5,800万トンと前年同期比を2.1%上回っている。年率で16億トンを下回るが前年実績を7,000万トンあまり上回るペースとなっている。 □